



札私幼

発行

一般社団法人 札幌市私立幼稚園連合会
札幌市西区宮の沢1条1
札幌市生涯学習総合センター内
TEL011-671-3590
FAX011-671-3591
<http://www.s-youchien.or.jp/>
info@s-youchien.or.jp

今

思

う



一般社団法人 札幌市私立幼稚園連合会
会長 前田 元照

5月の総会を経て新体制、すぐさま札幌市役所ならびに市議会への挨拶まわり、預かり保育支援事業（3歳以上）や幼稚園保育室（3歳未満）事業、特別支援教育の拡充等、予算獲得や新規事業実現へ向け、司馬・丸谷両副会長、樺沢専務理事と連日こども未来局や市長部局へ足を運び（しばしば議論伯仲で交渉決裂になる事も・・・笑）、理事会や各委員会開催、夏の新採研、秋の教研大会、冬には各養成校の先生方との懇談会と、息つく間もなく駆け抜けたあっとい間の一年でありました。

そのせいか執行部の輪がより一層深まったような気が致します。改めまして、温かく見守っていただきました皆様、心から御礼申し上げます。先日、当園で最後の年長児の参観日が行われました。もうすぐ巣立って行く園生活の思い出や、小

学校へ入学してからの夢一杯の抱負をお母さん達の前で、どの子も澄んだ瞳でお話している姿、定番の“想い出のアルバム”を担任のピアノ伴奏のもと歌う姿を見て、涙々感動の一時でした。

どの親御さまも、我が子が健やかに成長していつてもらいたい、というかけがえない願いのもと、私達は大切なお子様をお預かりさせていただき、幼児教育を行わせていただいております。時には、保護者の方とのちょっとした行き違いで予期せず誤解を招く事も、子ども達同士の些細なトラブルが大きな問題に発展してしまう事も、楽しい事ばかりでなくどの子も園生活の中で様々なドラマが繰り広げられた筈です。そのような中で少しずつ保護者の方々と相互の信頼関係が構築され、子ども達も思いやりの心が少しづつ育まれ、大人への階段を一步一歩上がった成長の一時ではないのでしょうか？子ども達と泣いたり笑ったり、成長の感動を先生方や保護者の皆様と分かち合い、“幼稚園教育”は一言では語り尽くせない、本当に魅力がいっぱいで大切な職業であります。消費税増税に伴い子ども・子育て関連3法の施行がこれからされていく中で、私立幼稚園がどのような道を辿っていくのか？少なくとも大変なご労

苦の中で開設された設置者の先生の建学の精神や各園の特色が失われていく事が決まってしまうに精一杯の努力をさせていただきますので、宜しくお願い致します。

永年勤続表彰 ・新年交礼会

平成25年1月22日（火）札幌ガーデンパレスにて永年勤続表彰・新年交礼会が行われました。



丸谷雄輔副会長の司会進行のもと前田元照会長から新年の挨拶と長年札幌の幼児教育に尽力されている受賞者への感謝の言葉をいただき永年勤続表彰式を行いました。（受賞者の詳細は3P〜5Pに掲

載）札幌大谷第二幼稚園園長 蝦名松子先生より受賞者代表挨拶をいただきました。



札幌市教育長 北原 敬文 様 札幌市子ども未来局長 大谷内 則夫 様 より来賓祝辞をいただきました。





その後、裁研究委員長より来賓紹介が行われました。お忙しい中、吉川 貴盛 衆議院議員 舟橋 利実 衆議院議員をはじめたくさんの方がご来賓くださりご挨拶をいただきました。



札幌市私立幼稚園PTA連合会会長 白井 晴彦様により祝杯が行われました。



その後祝宴にて、参加されました皆様で楽しいひと時を共有いたしました。



会も終わりに近づき 北海道議会議員 角谷 隆司様により結びの乾杯が行われました。



司馬政一副会長の閉会の言葉で永年勤続者表彰・新年交礼会を終えました。

永年勤続表彰受賞者



勤続30年表彰(5名)

・札幌山幼稚園

教諭 斉藤 恵子

・札幌大谷第二幼稚園

園長 蝦名 松子

・ばんけい幼稚園

教諭 米森 久仁子

・まなび幼稚園

教諭 橋本 那於子

・つきさむ幼稚園

園長 押野 裕子

(園番号順)





勤続20年表彰(13名)

- | | |
|--------------|-----------|
| ・カトリック聖園幼稚園 | 教頭 天野 礼子 |
| ・ばんけい幼稚園 | 教諭 瀧川 小弓 |
| ・ばんけい幼稚園 | 教諭 菊地 香織 |
| ・清明幼稚園 | 教諭 佐藤 純子 |
| ・北郷あゆみ幼稚園 | 職員 内田 紀子 |
| ・北都幼稚園 | 職員 眞保 明 |
| ・北都幼稚園 | 職員 金谷 芳憲 |
| ・札幌みづほ幼稚園 | 副園長 大村 紋子 |
| ・なかのしま幼稚園 | 教頭 田中 慶子 |
| ・札幌若葉幼稚園 | 園長 西本 聖慈 |
| ・まなび幼稚園 | 教諭 吉田 美佐子 |
| ・札幌国際大学附属幼稚園 | 園長 早坂 聡子 |
| ・さわらび幼稚園 | 教諭 小山 恵美子 |

(園番号順)



園 紹 介 ア ラ カ ル ト

札幌ルーテル幼稚園

桑瀬 奈緒美



当園の「建学の精神」は、第一に、キリスト教の信仰に基づき、幼児一人ひとりが神の愛に包まれていることを伝達する。第二に、その愛に包まれながら、自主性を持った感性豊かな一人ひとりの芽を摘み取らないような関係や環境づくりをする。第三に、自主性を持った個性を伸ばしていくことだけでなく、隣人を愛し、他者に思いやりのある子どもとして、共に生きていくことの大切さを学ぶと掲げています。

札幌ルーテル幼稚園は、中央区にあり、「建学の精神」で述べられているように、キリスト教が土台になっている幼稚園です。また、園バスをもっていないので、在園している子どもたちは、地域に住む

子どもたちがほとんどです。幼稚園のある地域は、閑静な住宅街で、少し歩けば西友やホームマックなどがありますが、住宅街の真ん中に建っている、園児一〇〇名あまりの小さな幼稚園です。また、自然にも恵まれており、円山公園、旭山公園などは、子どもたちの散歩コースになっています。

私たちの園は、「ひとりひとりが輝くために」という教育目標を掲げ、「明るく元気に遊ぶ子ども、友だちとのびのび遊ぶ子ども、自分でためしたり、考えたりして遊ぶ子ども、思いやりを持ち、友だちと共に生きる子ども、創造性に富み、集中力のある子ども」と、そのような子どもの育ちを大切にしたいという願いもあり、自由遊び（自発活動）の時間を多く持っています。

自由遊びを大切にしているのは、自由遊びの中に、子どもが自ら好きな遊びを見つけ、仲間と共に遊びを創り出すための大切な時間があると考えているからです。たとえば、ケンカであったり、泥んこや水に思いっきり戯れる姿であったり、幼稚園で生活するという環境の中で、子どもたち自身がどのように展開していくかを大切に見守り育てていきたい時間であると考えています。また、絵本の読み聞かせなども貴重な時間として大切にしています。絵本の豊かな絵や言葉に親しみ、豊かな創造力を育むために、読み聞かせを多く取り入れると共に、絵本の貸し出しも行っています。

子どもたちの幼稚園での生活のほとんどは、遊びによって展開されていますから、「遊びたい」と自ら環境に関わろうとするような環境の構成を考えていくことが大切になります。そのためには、保育者が、子どもたちの遊びをしっかりと見ていき、その遊びが、どのように広がり、深まるのかを思いめぐらし、子どもの興味・関心、他の子どもとの関わりとなるもの、遊びのきっかけや広がり可能性などを考えて、環境を工夫していくことが大切になるのだと考えます。私たち保育者は、子どもたち一人ひとりが、のびのびと過ごせる環境づくりを大切にしていきたいと思います。クラス担任は決まっていますが、全教職員が園児一人ひとりの姿をしっかりと見ていき、その姿を通して感じたことなどを話し合う時間を多く持っています。それは、子ども一人ひとりの遊びの姿を語り合うことを通して、子どもの育ちを共有し、成長の援助をしていくことができると考えているからです。



札幌ゆたか幼稚園

平野 麻実



へムーブメント活動

当園は、『ゆたかなこころ・たくましいからだ・たのしいかんがえ』という3つの教育目標のもと、生き生きと意欲的に毎日を過ごすことを願い、日々の教育活動にムーブメント活動を取り入れています。『動き、身体運動』という意味を持つムーブメントの中で、音楽に合わせて伸び伸びと身体を動かし表現することは、子ども自身の自己表出・自己解放へ繋がります。創造的に、意欲的に活動に取り組むことが出来ると考えています。子ども達をよく観て、様子にあわせて進めることを大切にしながら、季節や体験したことを個人で、数人で自由に表現します。友達と話し合い折り合いを付けることがこの遊びを通して自然とみられます。イメージを広げた後に絵を描いたり、リズム遊びやソルフェージュ、器楽演奏などの音楽活動へ、また、園内にあるプールの中で集団あそびをしながら全身運動をする

ことに繋がって…など、本園の教育活動の源となっています。



《自由活動》

毎日、午前と午後それぞれで、自由活動の時間を設けています。自由活動は、その名の通り、自分で自由に遊びを選択でき、主体的に活動できることが最大の魅力です。お天気のいい日は戸外に出て、夏は泥んこ遊びや水遊び、冬はおしり滑りやチューブ滑りなど、季節に合わせた遊びを展開しています。

遊びを見ていると様々な面白い場面に出会います。他の子の遊び方を見て真似をしてみたり、友達とコミュニケーションをとりあい、発達段階によって遊びのルールや役割分担を決めることが出来るようになり、お互いの状況や気持ちを伝え合えるようになります。また、縄跳びを鉄棒に結んでブランコにしたり、たまった水をどうにかしてすくおうと、コンテナを傾けて水を集めたり…今後必要であるう生活の知恵を遊びの中から学んでいることを実感します。教師は、遊びの中で葛藤したり譲り合ったり、思いやったり

しながら、自ら行動する力が育ってほしい(他者との意思疎通)というねらいをもったかかわっています。

これらの活動を支えるために私たち教師ができること。まずは意識を変えることから始めました。今までは安全に遊べることを優先してきましたが、大きな事故につながらないのであれば見守りの中で、ある程度子ども達に遊び方を任せ、危機を回避したり、自分で身を守るようになるのだと考えることにしました。教師はすぐに遊び方を『教える』のではなく、『気付かせ、考えさせる』『見守り方』を心がけるようになりました。日々、自由活動についての話し合いをすることで、その場面を共有し合い、子どもたち一人ひとりの心の動きに着目しようと、意識も変化してきました。

子どもにとって主体的である『遊び』とは、自分のしたいことに向かって何かをしようとする意欲をもつこと。その過程において、子ども達の気持ちに向き合い、寄り添える…そんな教師、幼稚園でありたいと思っています。



平成24年度代表者会議・通常総会

2月19日(火)札幌ガーデンパレスにて平成24年度代表者会議及び通常総会が開催されました。代表者会議では、遊育吉田編集長による「子ども子育て新制度の概要とポイント」を御講演頂きました。この日は、雪により飛行機の発着遅れが生じ吉田編集長が予定時刻に開始することが困難であった為、澤田振興委員長によりまず実態調査概要報告が先に行われました。



通常総会では、丸谷副会長の司会進行のもと、前田会長のご挨拶をいただきました。来賓からは、町田教育次長、白井PTA会長より御挨拶をいただきました。澤田振興委員長より定足数の確認が行われ出席者の中より平岸幼稚園園長室橋先生

が議長に選任され議事進行となりました。第1号議案 平成25年度事業計画(案)について各委員会より事業計画の説明があり賛成多数で承認可決いたしました。第2号議案 平成25年度収支予算(案)について 榊澤専務理事(事務局長)より説明があり賛成多数で承認可決いたしました。第3号議案 その他 につきましては、決議事項がなく、全ての議事が終了いたしましたので、司馬副会長の閉会の言葉により平成24年度通常総会を閉会いたしました。



総会終了後、平成24年度北海道社会貢献賞を受賞されました札幌みづほ幼稚園理事長・園長 須合 國彦 先生へ会を代表し前田会長よりお祝いの花束が送られました。



12月18日(火) 養成校懇談会(札幌ガーデンパレス)

連合会日誌

第九回総務委員会
第七回理事會

12月19日(水)

幼児教育推進協議会(教育センター)

12月22日(土)

就園奨励費二次申請臨時受付

平成25年

1月7日(月)

前田会長・両副会長
と札幌市渡部副市長との予算協議



1月11日(金)

〃

と子ども未来局との予算協議

1月22日(火)

永年勤続表彰・新年交礼会

(札幌ガーデンパレス)

総務委員会

第八回理事會

学事課説明会

第九回理事會

総務委員会

広報委員会

振興委員会

予算総会

(札幌ガーデンパレス)

総務委員会

第十回理事會

代表者會議

2月25日(月)

前田会長・両副会長
と子ども未来局との予算協議

3月6日(水)

幼児教育推進協議会

3月11日(月)

「DVDで振り返る東日本大震災」

(かでの2、7)

(教育センター)



編集後記



広報委員長 須合 國彦

子ども・子育て関連3法は、幼児期の学校教育・保育、地域の子ども・子育て支援を総合的に推進することを趣旨として、『認定こども園制度の改善』、『認

定こども園、幼稚園、保育所を通じた共通の給付(「施設型給付」)、『地域の子ども・子育て支援の充実(利用者支援、地域子育て支援拠点等)』を掲げております。

平成27年度以降に、幼稚園の道管理運営費補助金が施設型給付金になり窓口が札幌市に変更になる。保育料が保護者の所得に応じた公定価格となる。だけど、今までどおり北海道の管理運営費補助金で運営する幼稚園として残ることもできる。等々、いよいよあと2年ほどで期間の中で幼稚園の経営環境が大きく変わるようです。

幼保連携型や幼稚園型認定こども園、施設給付型の幼稚園、現状どおりの管理運営費補助金を受ける幼稚園、4種類の幼稚園ができるのだそうです。

私も39年間、札私幼に会員としてお世話になっておりますが、こんな大きな変革は経験がありません。

それぞれの会員が、お互いの違いを認め一致団結していかなければ、無益な競争の時代に入るかも知れません。

どんな状況になっても、札幌市私立幼稚園連合会を支えるのは私たち会員です。もし結束が崩れて、それができなければ札幌市の幼児教育の崩壊に繋がってしまうでしょう。

いまから数年が私たちの頑張り時です。

お詫び

広報誌144号の発行を平成24年度内に予定していた為、一部年度末向けの内容でご寄稿いただいております。発行の遅れと共にお詫び申し上げます。

編集担当 塚本憲昌